



支援物資を持って岩手県宮古市の避難所を訪ねました

巻頭言 相互扶助の精神に立つ

NPOは、Nonprofit Organizationの略ですが、直訳すると「非営利組織（団体）」です。そこで「非営利」とは何かというと、これは、何か社会的にやらなければいけないことがあれば、儲かることを考えずに行うということです。儲けが出た場合には、次の社会的な活動のためにさらにそれを活用していく、という発想で活動をするわけです。

日本では、こういう活動があまりよく理解されない時代がありました。儲からないことはなにも民間がやらなくても、国にやらせればよい、そんな発想が強かった時代があったように思います。というのも日本では、戦後民主主義の中で、よい政府を造ることがいい社会を造るのだと考えられてきたからです。実際、つい1970年代まで、国家や社会の問題は、政府や企業で何とかしていくと考える向きがありました。ちなみに政府が全部責任を持つというのは、共産主義の発想になりますし、逆に小さな政府を実現し、企業による市場での自由な競争に任せるとするのは、資本主義の発想になっていきます。ともあれ、高度経済成長期以降、政府と企業の活動だけではどうもうまくいかないという状況が生じてきたわけです。そこで、政府でも、企業でもない、第三の、営利を目的としない、公共的な活動が必要であると認識されるようになりました。政府も企業も重要であるが、それらにない役割を果たすものとして独立した存在が必要というわけです。

Contents

■活動報告

フィリピン (MHCP) …P.2

スタディツアー …P.4

■日本事務局から

総会報告 / 決算報告 …P.5

クリスマスレターについて …P.7

スタッフ紹介 …P.7

くれよんプロジェクト …P.8

その他お知らせ …P.8

(ジョイ・ジョイ・ブックプロジェクトなど)

儲かる、儲からないということを度外視して、社会のために必要であると思いついた人が周りの反対や無理解を押し切ってでも、先駆的・冒険的な役割を担う、そういう存在があればこそ、確かに政府や企業の働きも活性化されていきます。また政府は大多数の考えに合わせ、企業もできるだけ多くの利益を生み出す消費者に合わせて行動するというところがありますが、NPOは、少数の特化した対象を考えて行動することができる、いわゆる多面的・多様な働きを展開できる存在です。さらには、政府も企業もなかなかできない、人の心に関わるサービスを展開できます。そういう意味で、NPOには多くの期待が寄せられるものでしょう。

ただNPOというのは、日本の歴史の中で新しいものではないことを覚えておく必要もあろうかと思えます。すでに「結い」や「講」といった相互扶助の活動は江戸時代からなされていたと言われます。大切なのは、何か新しいことをするというのではなく、すでに日本人の心の中に培われてきた相互扶助の精神を生かすということなのでしょう。そして政府や企業が動きにくいところで、心を配り、助けの手を差し出していき、あるいは、政府や企業と協働しながら、新しい共同体づくりを積極的に実現していく、ことであろうと思えます。今年HFIは認定NPO法人化を目指し、さらにリソースを有効活用する働きをしてまいりたいと思います。ぜひ皆さんの支援を続けてお願いします。

(HFI代表 福井 誠)